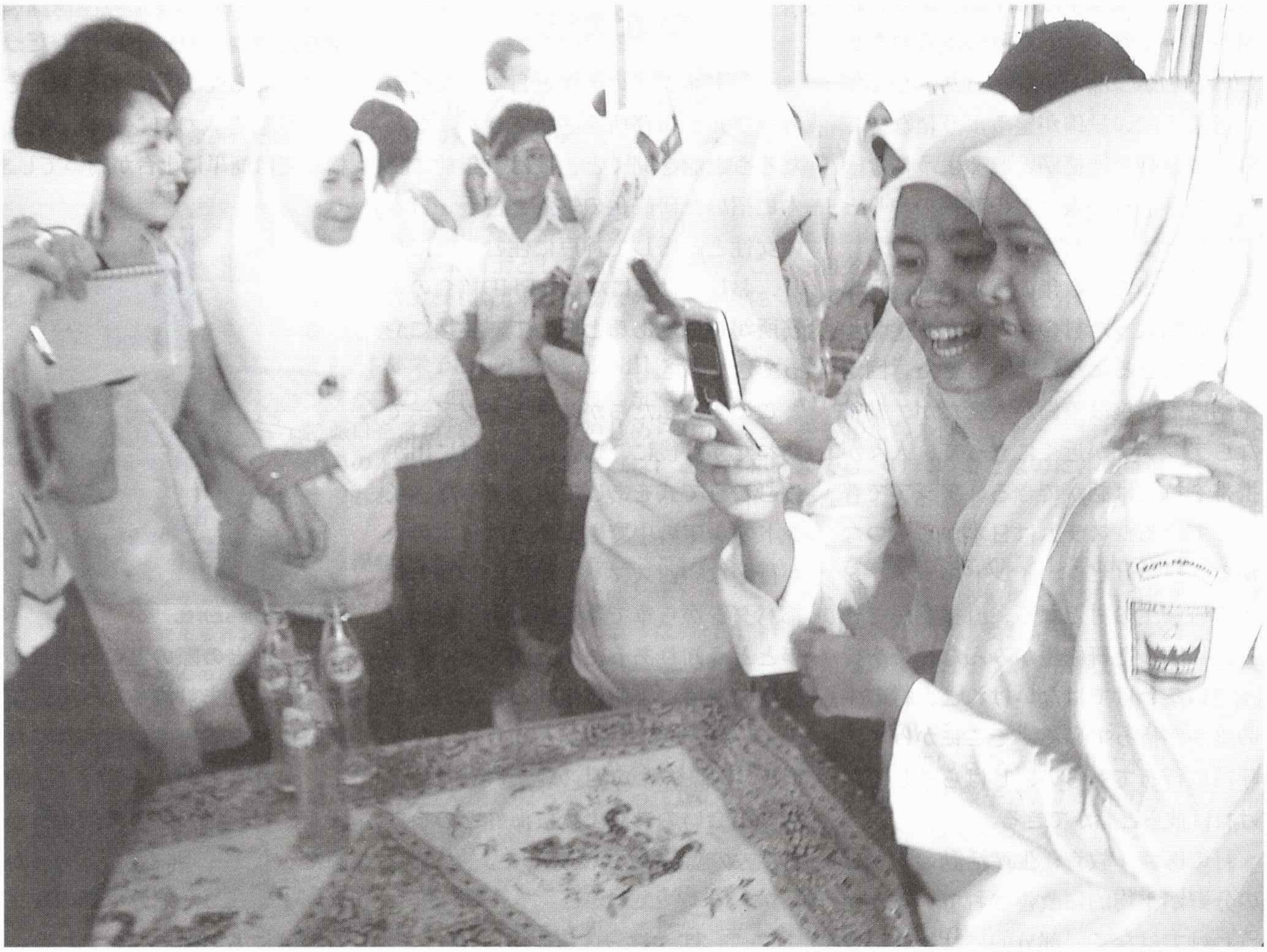
PHD LETTER 101

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT
2006.12

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和（Peace）と健康（Health）を担う人づくり（Human Development）をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発　行：　財団法人PHD協会　理事長　今井　鎮雄
編集人：　藤野　達也
住　所：　〒650-0022　神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892　FAX 078-351-4867
Email：　phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL：　http://www.kisweb.ne.jp/phd
定　価：　100円
郵便振替口座：　財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688

●国内スタディツアー「水俣」報告
●研修生／帰国研修生レポート
●連載シリーズ「同じ買うなら、使うなら！」



インドネシア　西スマトラ州パリアマン　撮影　FUJINO T.

西スマトラの町の専門学校をスタディツアーの道中で訪ねた。公式の時間が終わると学生が日本からの参加者を取り囲む。その手には、カメラ付き携帯が。

これもグローバルスタンダード？

**東西南北
問題解決
取組日記**

村の携帯電話

携帯電話の普及が目ざましい。日本の中の話ではなく、アジアの国々でのことだ。PHDの活動が始まって26年目。当初は村と連絡を取ることは極めて難しかった。主な手段は手紙であり、電話やファックスなども町の限られたところとしかつながらなかった。少しずつ通信手段の設備が整うようになって町とは電話で連絡がとれるようになってきたが、村の人々との直接のやりとりはなかなかできなかった。

ところがここ数年のうちに町から車で数時間入った村の人たちと直接やりとりができるようになってきた。固定電話はその施設整備が大変だが、携帯ならアンテナが近くに立って、人々が携帯を持てば話ができる。アジアで普及しているシステムは日本からもつながる。フィリピン、インドネシア、タイの研修生の村となら、直接話ができる。帰国した研修生がみんな携帯を持っているわけではないけれど、村の中の誰かが持っている。そこにかけて、呼びに行ってもらい、しばらくしてかければ彼らと話ができる。

村の医療、教育、生産活動のすべての分野が平均的に改善されているというわけではなく、部分的に、特に消費するという行為のところで先進工業国のレベルと近いようになっている。携帯の値段を尋ねれば、そんなに高くないようではあるが、持てば確実にお金としての支出は増える。村の生活の中で、この支出をまかなう現金収入が伴っていれば問題はないだろうが、どうなんだろう。

とか考えているところにタイでクーデターが起きたニュースが伝わってきた。しばらくしてタイを一緒にまわった新聞記者から問合せがあり、何か情報は入っていないかと聞かれた。タイから特に連絡はなかったので、バンコク近くに住む一人の研修生に連絡を取り、現地の様子を聞き、記者に伝えた。それは翌日の記事になったが、この時の連絡先も携帯電話だった。

つながり

インドネシアの男性と日本の女性のカップルが事務所を訪ねてきた。なんだろうと話を聞くと、彼は数年前に日本に招いた研修生の甥だと言う。日本の女性と結婚して神戸に住むことになり、おじが世話になったPHD協会の事務所が神戸にあると聞いて、挨拶にやってきたのだ。

この夏、私たちがスタディツアーで訪ねたすぐ後に、二人は同じ村に出かけむこうで式をあげてきたそうだ。インドネシアの中でも、そうは日本の人が行かない西スマトラ州の、しかも州都パダンから車で数時間の山の村の青年とどう知りあったかと聞くと、彼は徳島の農協に「研修生」としてやってきていたときに、彼女と知り合ったという。国際結婚が珍しいとかではなく、その出会いのありように海外とのつながり方の幅の拡がりを感じた。

基礎が肝心

毎年訪れるスマトラの漁村で、今回悲しい光景を見てしまった。３人の研修生が生活するパシルバルー村は、砂浜が広がる漁村で、港はない。木造船を漁が終わるたびに浜にひきあげている。これがなかなか大変で、港ができることは漁師にとって長年の夢だった。そこに行政の支援で港ができることになり、その工事が昨年から始まっていた。さすがに広い砂浜を港にすることはできないので、村の近くを流れる川の河口を利用し、川べりをコンクリートで固め岸壁にし、そこに船を接岸するという計画だった。昨年すでに西側の岸がコンクリートで固められ、その脇にセリのできる建物もできあがっていて、その進展を楽しみに今年出かけた。

そこで目に入ったのは無残にも崩れ落ちたコンクリートの岸壁だった。川べりといってもそこも砂地。そこに少しの鉄筋を入れコンクリートで固めた構造では簡単に土台が動いてしまう。

一年前のコンクリートの岸壁。

崩れ落ちてしまった岸壁。

さらに海との際のところが風の影響などで砂がたまり浅くなってしまい、干潮時には、まともに通れなくなっていた。かなりのお金をかけて、漁村の振興を、村びとの労力軽減をはかった計画だったが、現時点では明らかに失敗だ。１年たっただけでこのまま放置するわけにもいかないので、今、対策を考えているそうだが、基礎調査が不十分であることははっきりしているし、中途半端な追加工事で修復できるとは到底思えない。漁師たちの期待を背負って行われた計画だったが、無駄使いに終わってしまいそうな気配だ。

研修生のアリさん（87年度）からも「何かいい知恵はないでしょうか」と尋ねられたが、返答につまった。お金をかける開発は、調査を十分にしなければならないことを改めて知らされた。

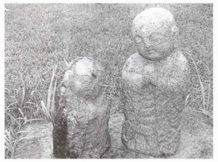
総主事代行　藤野達也

国内スタディツアー水俣 その１

水俣ツアーへの想い

水俣に初めて行ったのは、２年前、私が国内研修生としてＰＨＤでお世話になっていたときでした。アジアから来ている研修生に、農業や保健衛生などについての知識や技術を身に付けてもらうと同時に、日本の経済発展の裏側にある社会問題についてもきちんと見てもらう、ということもＰＨＤの研修プログラムです。

そうしたプログラムの一環として、毎年、西日本研修旅行を行います。水俣、筑豊、諫早、広島などを訪問します。当時、私は28歳。この年にして初めて知ることが多く、目からウロコがぽろぽろ落ちたことを思い出します。『国際協力』という分野にいて、果たして、日本にどれほどの『協力』ができるのか。日本のことを知らないで、日本の問題に目を向けないで、何ができるのか。神戸に帰ってきてから、研修旅行を振り返りました。



再度、水俣に訪れることになり、「日本に住む人も、きっかけさえあれば水俣に行きたい人が集まるんじゃないか…」という気持ちが大きくなり始めました。受け入れ側には、元国内研修生の坂西さんという心強い先輩がいる。やってみよう！ということで、このツアーを打ち出しました。

ボランティアの皆さんとの企画、事前学習会、現地のプログラム、そして報告会。2006年の夏、私のビッグイベント、ひとまず終了です。　佐藤栄利子

◇◇主な訪問先◇◇

水俣病センター相思社・・・水俣病患者および関係者の生活全般の問題について相談、解決にあずかるとともに、水俣病に関する調査研究ならびに普及啓発を行っている。
ほっとはうす・・・胎児性水俣病患者など障がいを持つ方々が通って、喫茶店や押し花のしおり作りなど地域に根ざした活動を行っている。
百間排水口・・・以前使われていた排水口。有機水銀がたくさん流れました。
水俣市立資料館・情報センター・・・水俣病の歴史や概要を展示、また対策や今後の取り組みなどを啓発している。
エコネットみなまた（石けん工場）・・・環境に、そして人体に無害なやさしい石けんを作っている。
緒方正実さん抗議行動・・・熊本県が人格侵害にあたる表現をした問題で、同県水俣病対策課長らが面会、謝罪。
天野茶園・・・無農薬でお茶を作っている。水俣に人が集まることを願いゲストハウスも完備。
寒川水源・・・水俣湾にそそぐ水の源流。
明水園・・・重度の水俣病患者の療養施設。

水俣湾を眺めて。今は静かで美しい。

「人様は変えられないから自分が変わる」杉本栄子さんの印象的な言葉でした。

水俣出身の歌手柏木敏治さん。水俣弁で歌い、水俣を伝える活動をしています。

吉井正澄さん（元水俣市長）のお話を。「もやい直し」の仕掛人。水俣にあるいいものを探して活性化をはかることを多くの人に訴えています。

もの言う応援団 ～参加者からの報告より～

人と人とが人同士として純粋に向き合うことは素直になれば簡単なはずなのに、素直になることはとても難しい。このことを考えるとき、杉本栄子さんのお話を思い出します。「もうすべての人のことを許しています。どんなに悪口を言われ、どんなにいじめられても、相手の本当の姿を見ようとすれば、どんな相手でも本当はいい人だとわかる。」

（団体職員／坂本真由美）

水俣病には人災の側面もあり、これは思っていたよりも大きなことだと感じました。そして、水俣だけでなく、同じような災害は今度どこでも起こりうるものだと思いました。

言葉だけではない、行動に移せる人でありたい。　（会社員／安本真理子）

都会にいると日々の仕事に忙殺され、時間だけがどんどん過ぎ去ってしまって虚しい気持ちになることがあります。私自身の人や地域とのつながりが、現在いかに希薄であるかということを実感し、これが自分を虚しい気持ちにさせている一因かと思いました。まず自らの足元の「もやい直し」※から取り組んでいきたいと思います。さらには、水俣で知り合った方々と、いつか双方向の交流ができることを希望しています。（大学職員／小野田弘之）

自分の住む国日本でおきたこのような大きな事実を私自身ほとんど分かっていなかったことを痛感。決して目を背けてはいけないし、これから先の世へも語り継いでいかなくてはいけないことだと思う。その為にも、今を生きる私たちの世代がもっと知り考えていかなくてはいけないことなのに、私は何をしていたんだ！！と、強くそう思った。

（大学生／風浦慧子）

教育の場面では知識として4大公害を、公害名・原因物質・地域名・地図上の位置などで捕らえるだけで、受験対策として終了させてはいなかっただろうか？水俣が心の中で本当に近くなりました。　（中学教員／桃骨）

「知らないこと、知ったかぶりは罪」「命を粗末にしている今、日本中に水俣病が広がっている」杉本栄子さんのお話の中での言葉が浮かびあがってくる。水俣で出会った人が、出来事が、まさに自分の今の生活や生き方を問いかける。自分のまわりに一歩踏み出して、伝えていくこと、一緒に感じていくことからはじまるのだと感じた水俣での日々。きっと「もの言う応援団」への道は、ここからまた自分で道をつくっていきながら続いていくものなのだ。　（保育士／野元律子）

※「もやい直し」・・失われた自然、人とのつながりを再び結び合わせること。

水俣のすごいところは、被害の後に再生の物語があるところで、そこに魅力がある。今回は、それを伝えることができたのではないかと密かに思っている。相思社の水俣案内にはマニュアルは存在しない。故に同じ場所に言っても職員によって話すことは違う。杉本さん、吉井さん、天野さん、そして出水でＰＨＤを支え続けた宮田さんに助けられ、また参加者の皆さんが協力してくれたことで、私の力不足を補い水俣の魅力を伝えることができたことに感謝したい。

（水俣病センター相思社／坂西卓郎）

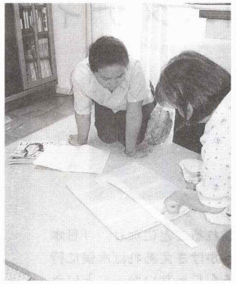
ほっとはうす職員・PHD支援者の宮田成男さん。今後は人が集まり対話できる場所を作りたいと。

天野茶園にて。無農薬で育てているので雑草も多く手入れは大変とのこと。

毛髪水銀チェック。少量ながら含まれているのです。

研修生レポート

給食の準備をするスースーさん。段上小学校にて。


高橋武子先生とバッグ作り。ポーディーヤさん。

ススーテインさん（ビルマ／28才）

8月7日〜11日
波賀みどり保育園（兵庫県宍粟市）／保育
保育園での研修も4ヶ所目。先生と一緒に保育をしたり、調理師さんと子どもたちのお菓子作りを手伝ったり。前回までの研修を思い出しながら、幼児の成長に大切なことを学びました。

8月17日〜23日
ステップハウス（高砂市）／身体障がい者のケア
これまでとは全く環境が異なる小規模作業所での研修。初日から初めてとは思えないほど積極的に見よう見まねで介助の手伝い。「彼女は上手に接している」とスタッフの皆さんからも好評を得ました。先生として今後につながる貴重な経験ができました。

8月29日〜31日
頌栄児童館（神戸市北区）／教育
日本のもう一つの教育現場。3日間を子どもたちと一緒に過ごし、子どもたちが放課後、両親不在の時間を過ごす場として児童館のような場所があり、成長をサポートしている事を知りました。

9月4日〜7日
河内小学校（たつの市）／教育
待ちに待った小学校研修がいよいよ開始。授業の様子を見学したり、運動会の練習に一緒に参加したり、保健室や養護教諭の仕事について教わったり。理科の授業では実験の様子を見学。ビルマの小学校では理科の実験はしないため、この大きな違いに、「日本の子どもたちは、勉強の内容が分かりやすくていいですね。」と一言感想。

9月12日〜20日
高砂市保健センター、高砂健康福祉事務所（高砂市）／保健衛生
人の健康について病気予防の観点から学ぶ研修。栄養士さんから食事についてのお話を聞いたり、妊娠・出産前後の母子の健康や高齢者の健康維持についてプログラムに参加したりしながら、基本的な保健の知識を身につけました。

9月26日〜29日
段上小学校（西宮市）／教育
初日から子どもたちにまざって給食当番の手伝い。家庭科で食事のバランスについての授業を見学した後だけに、給食の大切さを実感できました。また、障がい児学級にも入らせてもらったり、4年生と一緒に消防署に見学に行ったりと、視野を広めることができた4日間でした。

10月3日〜5日
日置小学校（篠山市）／教育
児童数は村の小学校とほぼ同じ。日本の小さな小学校で、勉強以外にも人の温かさに触れることができた研修でした。

ポーディーヤさん（タイ／38才）

8月3日〜11日
太陽保育園（養父市）／保育
村のグループからのもう一つの希望である保育に関する研修でした。ポーディーヤさんは既に子育て経験は豊富なので、この研修では主に調理師さんと一緒に幼児の栄養面について学ぶことに重点を置きました。

8月12日〜16日
大森昌也さん（朝来市）／米、野菜、養鶏
6月に引き続き、家畜研修第2弾ということで、今回は養鶏。配合する飼料の違いを知りました。バイオガス作りも体験しました。

8月21日、23日、28日、30日
くらふと・ぎゃらりー多田（芦屋市）／洋裁
自分たちが着る洋服を作る技術習得のため、全4回の研修でスカート作りをしました。製図から型紙を作るまでの工程が特に苦労したようです。

9月6日〜8日
高橋武子さん（三木市）／洋裁
カレンの手織り布でデザインを変えて鞄を2つ作りました。同じ形でもデザインを変えると大きく感じが変わることを知りました。

9月11日〜19日
三木市総合保健福祉センター（三木市）／保健衛生
5日間の研修で離乳食や成人の食生活、そしてBCG接種や65歳以上の方対象の体力アップ教室など、幼児と成人の健康管理について学びました。

9月13日、16日
田坂友江さん（三木市）／洋裁
PHD研修生を初めてご指導いただくことになった先生の下で、まずは子ども用のスカートを作りました。

9月27日〜28日
高木育代さん（神戸市西区）／洋裁
カレンの布を帽子に加工。素材の特質を生かした良いものが出来上がりました。

カラーでお見せできないのが残念です。なかなかの出来上がり具合でした。

スリヤ・プットラさん（インドネシア／23才）

8月2日〜4日、8日〜12日
中野宗嗣さん（丹波市）／酪農、米、野菜
連日猛暑が続く中での研修。初日、ボランティアさんと共に聞いた中野さんの有畜複合経営へのこだわり。言葉が難しく分からなかったことも、10日間の研修を通して体で理解できました。

8月16日〜21日
大森昌也さん（朝来市）／米、野菜、養鶏
神戸の喧騒を離れ車で2時間半。自給自足を営む一家の下で農業だけでなく、大森一家の生き方に触れました。また豚糞や人糞など身近なものからガスを発生させ生活の中で利用できることを知りました。今回は時期はずれで出来なかった木酢液についても勉強したいと、常に好奇心旺盛です。

8月21日〜28日
寺田まさふみさん（豊岡市）／米、野菜
消費者に野菜を届けるための仕分け作業を経験。作るだけではなく、売ることも考えてなくてはなりません。大豆加工ということで納豆作りも体験しました。

8月28日〜29日
但馬農業高等学校（養父市）／野菜、肉牛飼育
待ちに待った肉牛飼育研修。まずは簡単なレクチャーを受けました。

8月29日〜9月4日
金谷智之さん（養父市）／野菜、堆肥
タラタジャラン村によく似た環境の大谷高原で野菜の高地栽培を学びました。取材に来ていたカメラマンに「笑顔がフレンドリーだ」と好印象でした。

9月4日
牧場見学（養父市）／肉牛飼育
繁殖和牛の放牧場や農業技術試験場を見学。雄牛の検定方法や選択方法について話を聞きました。

9月4日〜5日
寺田まさふみさん（豊岡市）／米、野菜
予定していた稲刈り作業が雨のため延期に。夏の疲れを癒すにはちょうど良い2日間となりました。

9月13日〜20日
牛尾武博さん（市川町）／米、野菜、養鶏
様々な野菜栽培と養鶏について勉強。特に鶏用の餌の配合には興味を持ちました。消費者団体への納品に同行した際にはグループの活動についてもいろいろ質問しました。

9月24日〜10月2日
吉田元一さん（岡山県新見市）／米、肉牛飼育
初の県外研修。吉田さん宅で稲刈りをしたり、くん炭作りを学んだりしながら、千屋牛の産地として知られるこの辺りの牛舎を猷匠さんと一緒に訪問し、肉牛飼育についても学びました。

吉田さん夫妻とともに。稲刈り完了です。

帰国研修生　報告　　スリランカ&インドネシア

◇◆スリランカ◆◇

ニーラカンティさん／87年度

1年〜9年生、130人の公立学校教師で、英語の他、裁縫など日本で学んだことを生かしています。

アジャンタさん／88年度
02年からは日本から中古の土木機械を輸入販売。そして、その重機を使っての作業請負を始めました。ゴム園やヤシ園の仕事が多いと聞きました。

ジャヤンタさん／86年度
2年前に村に戻り、現在は、母親と2人暮らし。農業に加え、テラピアと金魚の養殖などを行っています。

◇◆インドネシア◆◇

マスラルさん／05年度
借地に唐辛子とねぎ、唐辛子とにんにくの組み合わせで一つのうねに混合で栽培。グループの活動は農閑期なので農業の勉強などをしています。

ミミさん／02年度
8月にバスの取手が取れて車外へ転落。数日入院をしていました。しばらくは、自宅で療養。村の幼稚園はタランバブンゴ町で表彰され、ポシアンドゥ（母子保健）の活動ではソロ郡から表彰されました。

ダスウィルさん／99年度
唐辛子、米が病気で大変ですが、今後は虫がつきにくいマルキッサ（パッションフルーツ）やコーヒーを栽培する予定。農業のグループでは、カカオの栽培を広げていきたいそうです。

アリさん／87年度
近年は漁協の仕事が中心。政府にも働きかけ良い環境を作ろうとしています。製氷工場が稼動を始めていました。
今後は、山あいの村と海辺の村の研修生が交流して、情報交換できる機会を設けたいと話していました。

帰国研修生が一緒に。後列左からアルウィさん、サムスアリスさん、アリさん、ダスウィルさん、マスラルさん。前列左からヤニさんと子ども、そしてアフダールさん。

同じ買うなら、使うなら！

No.6 手ぬぐい

タオルが一般的に使われるようになっている今のご時世。しかし、手ぬぐいの良さに引かれ愛用している人も。「同じ買うなら、使うなら」手ぬぐいだ！！と言う手ぬぐい愛好家のお二人からお話を伺いました。

私と手ぬぐいとの出逢いは剣道でした。試合の度にもらえる"無心"や"平常心"などのお言葉が大会名と一緒に印刷されている、オシャレとは言い難い手ぬぐいです。

私の手ぬぐいお薦め理由は、何と言っても、①すぐに乾く、②かさ張らない、ところ。旅行にはもちろん、普段使いでも、１枚あればお風呂のゴシゴシタオル&バスタオルの代わりになるし、外での作業では、汗も拭えるし頭にかぶせて日よけにも。昔はふわふわのタオルが好きだったけれど、今はあのぺんぺん具合に愛しさを感じます。くたびれてきたら小さく切って布巾に。薄いので細かいところまでしっかり届きます。

昔の知恵をいただき、新しい形で現在につながるオシャレな手ぬぐいがブームな今、私には少し予算がオーバーなので、反物を買ってお気に入りの１枚を作ります。きりっぱなしで使える優れもの。プレゼントにも喜ばれる一品、・・・と思ふ。　佐藤栄利子

手ぬぐいは日よけに抜群！

日本手ぬぐいは、文化だと思う。絵柄はアートとしても十分通用する。失われていくものへの愛着を感じてもいる。私は特に夏場は、ベルトから下げて、洗った手の水分を取る。ハンカチもあるが、ぬれたものをポケットにしまうのはあまり好まない。

小粋なデザインのもの、とくに骸骨のデザインが大好きだ。なぜなら、神戸人だから。エ、どうしてだって？神戸は、シャレコウベに通ず。てかっ！　桃骨

夏のスタディツアー報告

今年は、７月15日～22日でビルマツアー（８名参加）、そして８月22日～31日でインドネシアツアー（13名参加）を行いました。大学生から85才の方まで、年齢や職業を超えて集まった参加者からの報告をお伝えします。

ビルマ編

会って来ました。10数年ぶりに！中国製品の溢れた町の中だが、村に入りほっとした。私が描いていた風景だった。トゥンティン、ムームーが村で頑張っていた。

会って泣き、別れに泣き、大笑いをし本当に楽しい旅だった。フィリピン、ネパール、インドネシア、スリランカ、ビルマ。まだこれだけだ。会いに行かなければならない子がまだいる。老いられぬ。

（研修指導者・丸山悦司・陽子）

一週間ぶりの家で久しぶりの御酒を飲みながらこの度のビルマ旅行をふりかえる。いろんな土地を見ることもすばらしかったが、何と言ってもウィンさん、トゥンティンさん、ムームーさんとの再会である。（研修生が日本にいるとき）ただ２，３日泊まってもらっただけなのに、これだけの友情が生まれるものか、この老人を親のように慕ってくれ親切にしてくれた。これで長い間の念願がかない、もう思い残すことは何もない。口にする酒の味が一層おいしく感じられた。

（滞在家庭・山端久男）

久しぶりのムームーさんとの再会にうれしさいっぱいの山端さん、85才。

インドネシア編

インドネシアツアーでは、この地を愛し、毎年ツアーに参加をした渡邉喜太郎さんの追悼式も行いました。その追悼式の言葉から。

「喜太郎さんが、村を初めて訪れたのが、1997年でした。心優しくとても素晴らしい人たちとの出会いによって、PHD協会のスタディツアーに８回も参加しこの村を訪れてくれました。また毎年、村の皆さんと出会うことを楽しみにしていましたが、一昨年、突然の病気のため亡くなりました。皆さんも私たちも大変残念で非常に悲しい気持ちになりました。

喜太郎さんが元気に子どもたちと遊んでいたこと、村の皆さんとインドネシア語で楽しく会話したことを憶えていますね。いま喜太郎さんはいませんが、喜太郎さんの気持ちは、自然に恵まれたこの地に行き続けることでしょう。南の夜空に輝く星を見つけたら、その一つを喜太郎さんと呼んで、彼のことを想いだしてください。皆さんで喜太郎さんのためにお祈りをしましょう。」

（高校教員・松本直樹）

村のみんなも集まり喜多郎さんの追悼を。

今回のツアーに参加して、研修生の活躍ぶりが目に見えて分かったことが一番印象深かったです。まだまだ発展途上の村でしたが、PHD協会の活動を通じて自分たちで村を変えていく力をつけていると感じることができました。

（コープこうべ職員・松田智子）

豊かとか、豊かじゃないとか、何がいいとか、悪いとか・・・そんな次元ではないと思った。存在して当たり前のものなのに、日本での日々の生活で見落とされているものがここには普通に存在して・・・。たぶんこれが私が２年連続参加した理由なのかな。人々が本当に優しくて、あたたかい。時間の流れもゆっくりで・・。幸せな時間の連続だった。

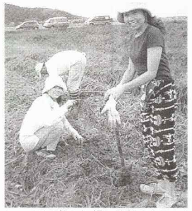
（大学生・荒木里奈子）

私の訪問記　VOL.7　丸山さんちで芋掘り

長年、各国からの研修生を受け入れ、今年はビルマツアーにも参加してくれた兵庫県加古川市の丸山悦司さん、陽子さんご夫妻。毎年、PHD協会のために畑を確保してくれています。皆で芋掘りに行ってきました。その中のお二人からの報告です。

９月９日晴天の日、ＰＨＤ協会の芋掘りに参加してきました。芋掘りといえば、家族でおばけ芋を掘り当てた町内会の芋掘り大会以来でした。小さいスコップで１人２株くらいを掘って・・・を予想していましたがとんでもない！！着いたとたんにお母さんの元気な声が「遅かったなー！」。農作業用のショベルで50mくらいある芋畑を７人くらいで手分けをし、掘る掘る、芋の土をとるとる、ダンボールに入れる入れる。まさに「ハーベスト」です。

何も分からず参加しましたが、なるほど！ＰＨＤ協会さんのための畑だったことを後から知りました。都会暮らしのはしくれ者の私にとってはショベルで作物を掘るというのも初めての体験で、できるかな？と最初は不安でしたが、気づくと無我夢中で芋を掘り起こす芋ハンターと化していました。ショベルに体重をのせ、芋を切らないようにショベルを垂直に土に突き刺し、掘り起こす。一発で掘り起こしてしまうプロの方には到底かないませんが、短時間でかなり上達しました。



ショベルの扱いに慣れ笑顔の山口さん。

作業の合間によく冷えたスイカがふるまわれ、お昼も沢山のごちそうが用意されていました。楽しく作業ができたのもパワフルで優しい丸山さんたちのおかげです。

いっぱいお日様を浴び、美味しい空気と美味しい食べ物、鮮やかな紫のお芋さん、明るく楽しい人たちに囲まれ、優雅な１日を送ることができました。

（山口亜樹／神戸市）

一番嬉しかったことは、農家の嫁さんになりたいと言う若い女性達と出会ったことでした。日本の農業は、雨・傾斜地・四季があって楽ではないかもしれません。でも、これからの有望産業は農業と信じています。しかし現実は、自動車などで地球上を埋め尽くす勢いですが、どうなるのでしょうか？

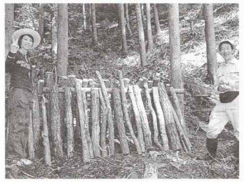
（河野正和／神戸市）

芋掘りメンバーで一緒に。後列右から２人目が河野さん。前列の一番左が丸山さん。

PHD活動紹介

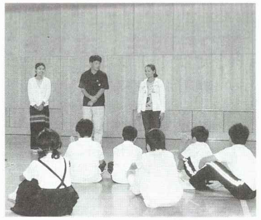
MEMO

8月中旬～10月中旬



９月30日にPHD協会が篠山に借りている里山に行ってきました。しいたけの菌を植えたので、林業合宿メンバーの福當さんたちとホダ木の手入れをしてきました。

９月24日、昨年に続いて枚方市の啓光学園へ研修生３名が訪問しました。国についての質問に答えたり、写真を見せたりして、国際理解を深めた一日となりました。



10月５日、ススーテインさんとポーディーヤさんは篠山市の日置小学校へ交流会に行きました。

体育館で、それぞれの国の挨拶やじゃんけんのやり方を紹介しました。小学生も関心を持っていました。

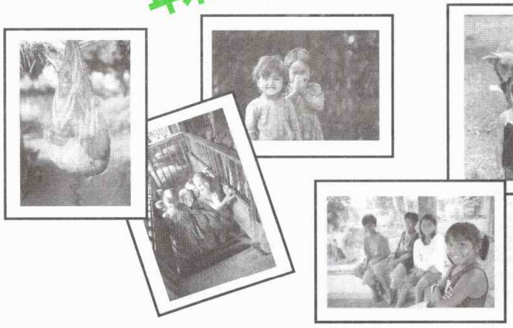
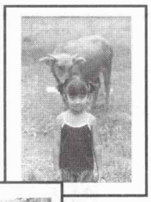
また、ススーテインさんは、ここで教育の研修もさせていただきました。

秋はイベントが盛りだくさん！！

10月14日に大阪市で第24回民際フォーラムがありました。今回は、「シニアのボランティア参加」について考えました。エルダーホステル協会の豊後レイコさんが基調講演を行い、その後ドーナツのように輪になって、ドーナツを食べながら会議を行いました。

パネリストの３名と参加者が積極的に意見を交換し、シニア世代のボランティア活動について熱く語ることができた１日でした。当会の藤野がコーディネーターを務めました。

年末年始のごあいさつにいかがでしょうか

アジア・南太平洋の
子どもたちの写真
8枚一組　¥500

ご注文は、電話・ファックス・
E-mailにて受け付けております。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2006年８月	101件	¥1,822,932
2006年９月	70件	¥1,708,614
	171件	¥3,531,546

上記の通り、多くの皆様よりご浄財を頂きました。心より感謝申し上げます。今年も恒例の年末募金を迎えます。PHD活動の更なる充実のために、皆様からのご浄財を用いさせていただきます。あらためましてご支援をお願いいたします。

◆特定公益増進法人(特増)の免税条件が改正されました。

当会では兵庫県より特増の認定を受けており、皆様からのご寄附に対して免税の特典がありますが、今年1月より免税条件が改正されています。皆様により免税特典を受けていただける内容になりました。

これまでは寄附金額より1万円を引いた額が寄付金控除額となっていましたが、5千円に引き下げられました。また寄付金控除の上限が年収の25％だったのが30％に引き上げられ、特典の幅が広がりました。詳しくは当会ホームページにもご説明しておりますのでご覧下さい。

＜例＞

年収が500万円の方が1万5千円のご寄附をされると、「1万5千円－5千円＝1万円」が寄附金控除額となり、「500万円－1万円＝499万円」の所得に対して課税されることになります。また、150万円（年収上限の30%）をご寄附された場合も、「150万円－5千円＝149万5千円」が寄附金控除額となり、「500万円－149万5千円＝350万5千円」に対して課税されることになります。

◆書き損じハガキはPHDへ

今年も年賀状を書く季節になりました。もし書き損じたハガキがでてしまったら、ぜひPHD協会までお送り下さい。新しいハガキや切手に交換し、日々の郵送費に活用させていただきます。

◆タイ短期研修生到着しました。

10月30日に、タイ・チェンライの大学に通っているシューキャ・ムアンチャンさん（21才）が来日。２ヶ月ほどの滞在を予定しています。しばらくは、日本語研修を行い、その後NGOの組織運営やコンピューターなどを研修します。東日本研修旅行にも同行予定です。

◆国内研修生が決まりました。

今年は、11月から上田浩代さん（22才）が国内研修生として活動を共にすることになりました。現在は、神戸大学法学部休学中です。どうぞよろしくお願いします。

○月×日のPHD協会

職員　佐藤　篠山に借りている里山でしいたけの手入れに出かけ、裏山で栗拾い。その場で焼栗にして感動し、帰って栗ごはんにしてさらに満足。

職員　佐々木　脚の痛みが長引き、物理的治療に加え、体質改善も必要とキャベツをノンオイルドレッシングで多食する秋。併せ黒酢も飲んでいるそう。

職員　因幡　半年前に間違え、行きそびれた店に今度こそと出かけ、タイスキを注文。二人で二人前を食べきれず残す。この業界にありえない話。

職員　高垣　研修生と各地を巡り、お世話になるお家で食事の相伴にもあずかる。今夜は丹波の黒大豆の枝豆と豆腐。運転があるからビールはなしね。

職員　藤野　特価70円均一にひかれ、コンビニのおでんにはまる。子どもの頃、駄菓子屋で食べた味を思いだしながら。日本伝統のファストフード、ですね。

（エンゲル係数の高い順）

編集後記

収穫の季節、PHDの芋掘りは、毎年恒例で、昨年は私も参加しました。収穫までに長い時間と努力を要しますが、作物が実を結んだときの喜びも格別。来年は皆さんも参加しませんか？Ⓢ

編集協力：荒木里奈子　菅原宗晋
藤原西児　増本一朗

第25期生　ホストファミリーを募集します。

期間：2007年４月から１年間。来日後最初の６週間は毎日。
以降、月平均７日程度。
希望滞在場所：神戸三宮まで１時間程度で通える範囲。
お礼：当会規定による食費、滞在費をお支払いします。
詳しくはお問い合わせください。

ヘルマイェニさん
インドネシア・20才・女性

ティダさん
ビルマ・34才・女性

チャユーさん
タイ・37才・男性